



f.tech inc.

第60期 報告書

平成 26 年 4 月 1 日 ~ 平成 27 年 3 月 31 日

株式会社エフテック

本年4月に発足した新体制のもと、海外展開をさらに加速し、企業価値の持続的拡大を目指してまいります。



代表取締役会長 **木村 嗣夫**

代表取締役社長 **福田 祐一**

2015年4月1日、 木村会長、福田社長の新体制が 発足いたしました。

本年4月1日、エフテックグループは新たな経営体制をスタートさせました。代表取締役会長には前社長の木村嗣夫が就任し、代表取締役社長には福田祐一が就任いたしました。全社的な方向性の策定や事業戦略の立案・遂行、経営資源（人・モノ・金）の最終判断を福田が担い、木村は、拡大する海外事業活動を進展させる役割を果た

していく方針です。この新たな経営体制のもとで業容の拡大と収益力の一層の強化に全力を傾注し、グループの持続的な成長を実現していく所存ですので、株主の皆様にはこれまで同様のご理解、ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

2015年3月期の連結業績は 売上高1,755億円、 当期純利益17億円となりました。

2015年3月期の世界の自動車業界

環境は、日本では消費税増税の反動による内需の低迷、タイにおける政情不安、中国経済の成長鈍化など、いくつかの懸念事項はあったものの、北米経済の好調維持と円安で推移する中、当社グループはグローバルな事業推進体制の拡充に経営資源を積極投入しました。2014年には、当社グループの開発提案力と生産技術力、そして盤石な製造管理体制が評価され米国GMからの本格受注を実現しました。また2014年8月には、欧州の先端技術のリサーチと欧州メーカーへのアプローチを目的にドイツ・デュッセルドルフに開発事務所を開設し、日本を含む世界5極のグローバルR&D体制を確立しています。

2015年3月期の連結業績は、日本、タイにおける大幅な減産の影響や、メキシコ及びインドネシア生産工場の立ち上げ費用発生等がありましたが、為替換算影響による増収などにより、売上高1,755億円（前期比1.8%増）、当期純利益17億円（前期比46.6%減）となりました。前期比では増収減益となりましたが、通期見通し数値を守りきることができました。そして、将来

の成長に向けて事業基盤の強化・拡充を進めることができた意義ある1年であったと振り返っています。

第12次中期三カ年計画のもと、競争力あるシャーシシステムメーカーを目指しています。

エフテックグループは現在、2014年4月から2017年3月までの三カ年を対象期間とする第12次中期三カ年計画を推進しています。本経営計画では、「圧倒的な競争力をもつシャーシシステムメーカーになる」を全社方針に据え、真のグローバル化、シャーシシステム体質への変革、環境対応技術の強化などを戦略目標に掲げました。

グローバルオペレーションの進化に

ついては、欧米系メーカーからの受注・引き合いが拡大している現状を踏まえ、開発提案力の更なる強化、グローバル供給体制の確立に向け、インド、ブラジルなど、自社拠点のない地域でアライアンス先の開拓に取り組んでいます。

シャーシシステム体質への変革については、部品単体からシステムへの移行を見据えた品質管理体制の確立、防振ゴムやボールジョイントなど構成部品に対する知見・ノウハウの蓄積に努めています。また欧米系メーカーへの提案力を向上させるため、米国のR&D拠点に実車同等の条件で部品単体からシステム解析テストまでできるロードシミュレータを導入し、走行性能や乗

り心地、更に音・振動に関し、より深い解析を進めています。

環境対応技術については、ホンダ「アコード」で実現したアルミと鉄の接合技術に加え、樹脂やカーボンなど金属以外の新素材研究を通じて製品の軽量化に取り組んでいます。

エフテックは更に、中長期的な展望のもと、収益力の強化、投資の厳選による有利子負債の圧縮や資金調達手段の多様化により財務基盤の一層の強化を図ってまいります。そして、人材育成に関しては、企業活動の全般に精通し、グローバルに活躍するゼネラリストの育成に注力してまいります。

売上高(連結)



経常利益(連結)



当期純利益(連結)





Profile

福田 祐一

- 1967年： 埼玉県生まれ。
- 1996年： エフテック入社。
- 2000年： 米国エフアンドピー ジョージア・マニユファクチャリング・インコーポレーテッド代表取締役社長。
- 2003年： エフテック執行役員。
- 2005年以降： 海外事業本部長、亀山事業所長、専務執行役員（製造部門担当）、生産本部長、管理本部長、営業・北米統括、国内統括、取締役兼副社長執行役員を歴任。
- 2015年4月： エフテック代表取締役社長に就任。

■ チャレンジスピリットこそ、エフテックらしさの核心であり、持続的成長への原動力です。

エフテックの歴史は、絶えることのない挑戦の歴史でした。

創業の地から現在地・久喜への本社移転、最初の海外展開となったカナダ進出、新亀山事業所の建設と移転、シャーシシステムメーカーへの挑戦など、いずれも時代の先を見据えた英断のもとで計画を実行に移してきました。

その歴史の中で育まれ、磨かれてきた挑戦する姿勢は、いまもグループの全従業員に共有され、経営を支える精神的支柱となっています。

私はこのチャレンジ精神こそ、「エフテックらしさ」の核心であり、持続的成長への原動力だと信じています。同時に、社員の挑戦する心と仕事に対する主体的な姿勢をサポートすることが経営陣の務めだと考えています。

チャレンジ重視の企業風土を更に強固なものにしていく、そして仕事に対する意欲的な取り組みを高く評価する人事システムを今後も適切に運用していくこと、それが他社に対する優位性を確かなものにしていくための絶対条件だと捉えています。

■ 事業推進の基本コンセプトはエフテックの強みと特徴を徹底して追求することです。

私が事業推進の基本コンセプトに置いているのは、規模の追求より企業としての質を高めることです。持続的安定成長と収益力の強化を図るために、エフテックの強みと特徴を徹底して追求することです。

エフテックの最大の強みは、開発提案力と生産技術力、そして高品質な部品を安定供給できるハイレベルな製造管理力です。GMからの本格受注に際しては世界のメガサプライヤーと競合し、競合先を凌駕する仕様提案を行うことで、開発力の高さを世界にアピールすることができました。また今後は自動車の進化を念頭に置いて、センシング機能を始めとする電子領域のスタディにも着手していきます。

幸い、近年はエフテックの卓越した開発提案力やハイレベルな製造管理体制のもとで最適生産、最適供給を実践できる当社の体制が欧米メーカーの間でも認知され、グローバル市場におけるプレゼンスが格段に高まってきました。しかし、単一機種プログラムで数百万台を対象に製品供給を行うことは、身の丈を大きく超える対応となり、現時点では良い結果をもたらさないと考えます。経営のリソースや生産キャパシティなど当社の総合力を客観的に評

価し、数ある案件やプログラムの中で、当社が持つ能力を最大限発揮し、お客様に最良のものを提供することで、お客様の期待を上回るパフォーマンスを具現化できる案件にフォーカスしていくことが必要です。また海外メーカーの期待を上回る為には高い開発提案力に加え、提案内容を最高効率で具現化する高度な生産技術力を同時に備えなければならないと認識しています。

生産技術に革新をもたらす FUTの第一弾が、2014年11月、稼働を開始しました。

エフテックのもうひとつの強みは、グローバルな開発・生産体制を構築していることです。2014年にはデュッセルドルフに開発拠点を新設し、日本(芳賀)、米国、フィリピン、中国と合わせて5拠点、24時間の同時開発体制を確立しました。市場の近くに開発拠点を配置することにより、それぞれの地域で最新のマーケットニーズを素早く捉え、それらを製品に的確に反映させることが可能になっています。

一方、縮小傾向が続く日本市場ですが、日本はあらゆる領域(安全、品質、環境、生産技術、生産管理、作業改善)のフロントランナーであり続けなければなりません。芳賀テクニカルセンター、設備センター、フクダエンジニアリングを擁するエフテックジャパンの重要性は

グローバル展開において益々高まるばかりです。エフテックでは現在、次世代の生産技術を支える技術アイテムであるFUT(F.Tech Ultimate Technologies System)の取り組みを進めており、2014年11月にはその第一弾(FUT-1)として超精密塑性加工プレスマシンが稼働を開始しました。エフテックは今後、FUT-1を活用した新製品をエフテックジャパンの「特産品」として生み出していく為に難易度の高い金型技術を手の内化し更に発展、進化させていく方針です。

エフテックの強みとして、成長力の源泉である豊富な人材も忘れることはできません。世界のグループ社員が旺盛なチャレンジ精神を持って日々の業務に当たっています。また「儲けるSEDBQM」のスローガンが示す通り、営業、エンジニアリング、開発、購買、品質、管理の全部門の全社員が、自らを収益創造の担い手として認識し、その自覚に基づいて業務を行うことで、筋肉質な企業体質の確立と質の向上に努めています。

エフテックグループは、以上述べた強みと特徴を更に深化させることにより、企業経営の全領域で「質の向上」を図り、自動車業界におけるエフテックの知名度向上、確固たる地位の確立に向け全力を尽くしてまいります。

開発・生産・販売・調達など 事業運営のあらゆる領域で 「世界最適」を実現します。

本年4月、第12次中期三カ年計画は2年目がスタートしました。事業環境は目まぐるしく変化しておりますが、そのような変化へ適切に対応する柔軟性を持って計画目標の達成に力を注いでまいります。本年6月には、エフテックジャパンが保有する生産技術を世界のグループ各社に水平展開するとともに、技術供与先のメーカーへ技術指導も行う為、本社内に海外ブロックを新設しました。開発・生産・販売・調達など事業運営のあらゆる側面において世界最適を具現化する真のグローバルカンパニーとなることにいま確かな手応えを感じています。

エフテックは2017年に創立70周年を迎えます。新経営陣、全従業員ともに、70周年の更にその先を見つめて、企業価値の拡大へ挑戦を続けてまいります。株主の皆様にはなお一層のご指導とご鞭撻を賜りたく重ねてお願い申し上げます。

平成28年3月期の連結業績予想

売上高	1,850億円
経常利益	62億円
当期純利益	26億円
1株当たり当期純利益	169.31円

究極の技術革新アイテム「FUT-1」が稼働開始

～新工法・新製品を日本の特産品としてグローバル展開～

2014年12月25日、エフテックの生産技術に革新をもたらす高剛性高精度のプレスマシン「FUT-1」が稼働を開始しました。久喜事業所第三工場に設置されたこのマシンは、エフテックの新製品創造と市場開拓を目的とした究極の技術アイテム。金型クリアランスを極小化した新たな抜き工法で、卓越した加工付加価値と20%以上の歩留り向上を実現しています。「FUT-1」は「F.tech Ultimate Technologies System」の記念すべき第1号機であり、同時にエフテックグループの未来(Future)を意味します。今後は、「FUT-1」による新工法とそこから生み出される新たな製品群を日本の「特産品」として世界展開するとともに、FUTのシリーズ化に向けた取り組みを加速してまいります。



材料歩留り20%以上向上

スクラップ大



スクラップ小



圧造による軽量化

超精密抜き+圧造
成形技術の確立



今後の方向性

部品

電装、ギア領域への
新規参入

加工方法

スクラップ再利用による
材料費最適化への
挑戦



海外子会社が、パーツ賞、搬入賞、品質賞を受賞

2015年4月、当社グループは、アメリカホンダ社様より「パーツ賞」「搬入賞」「品質賞」をいただきました。パーツ賞は、旧型部品の搬入率や品質について、搬入賞は、量産部品の定時定点点搬入率、品質賞は、量産部品の品質レベルについて、ご評価いただいたものです。今後とも当社グループは、ハイレベルな量産管理を徹底し、高品質な部品を安定供給することで、お客様との信頼関係を築いてまいります。



Global Network / Domestic Network

- ...関連会社
- ...駐在員事務所



国内拠点

- ★ 本社・久喜事業所
- 亀山事業所
- 芳賀テクニカルセンター
- 設備センター

国内グループ会社

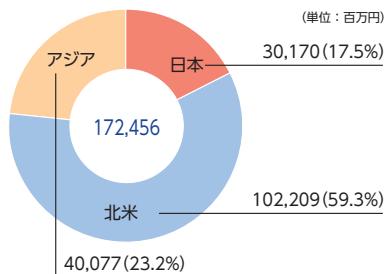
- フクダエンジニアリング株式会社
- 株式会社九州エフテック
- 株式会社リテラ
- 株式会社城南製作所

海外グループ会社

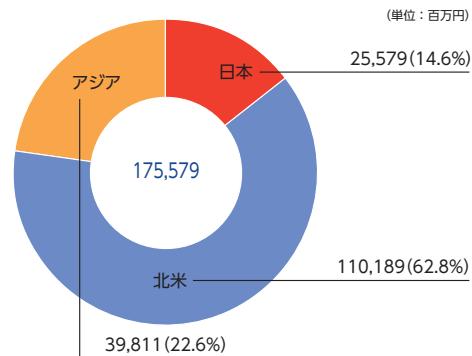
- F&P Mfg., Inc.
- F&P America Mfg., Inc.
- Dyna-Mig, A division of F&P Mfg., Inc.
- F&P Georgia, A division of F&P America Mfg., Inc.
- F.tech R&D North America Inc.
- FEG de Queretaro, S.A. de C.V.
- F&P mfg., De Mexico S.A. DE. C.V.
- Michigan Branch Office
- F.tech R&D North America Inc. European Branch
- F.tech Philippines Mfg., Inc.
- F.tech R&D Philippines Inc.
- F.tech Mfg., (Thailand) Ltd.
- PT.F.TECH INDONESIA
- 偉福科技工業(中山)有限公司
- 偉福科技工業(武漢)有限公司
- 煙台福研模具有限公司
- 偉福(広州)汽車技術開発有限公司
- Johan America, Inc.
- Johan De Mexico, S.A. de C.V.
- Johan UK Ltd.
- Johan F.tech (Thailand) LTD.
- PT.JFD INDONESIA
- 城南武漢科技有限公司
- Progressive Tools & Components (P) LTD.

所在地別売上高及び比率（連結）

前期



当期

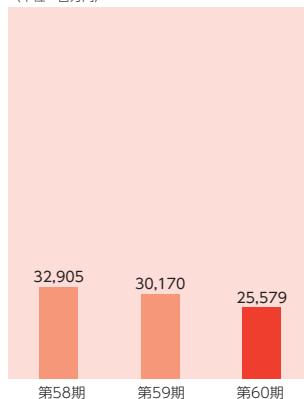


日本

主要顧客における国内生産の減少及び海外子会社での現地生産化の影響等により、売上高は25,579百万円（前期比15.2%減）、営業利益434百万円（前期比67.4%減）となりました。

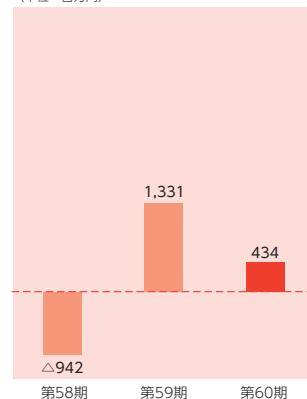
売上高 25,579百万円

売上高
(単位：百万円)



営業利益 434百万円

営業利益
(単位：百万円)

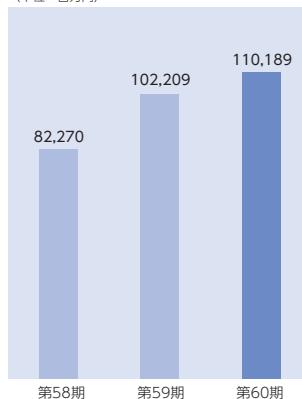


■ 北米

好調な北米市場の主要顧客への売上増加、北米における為替影響等により、売上高110,189百万円（前期比7.8%増）、営業利益4,635百万円（前期比17.6%増）となりました。

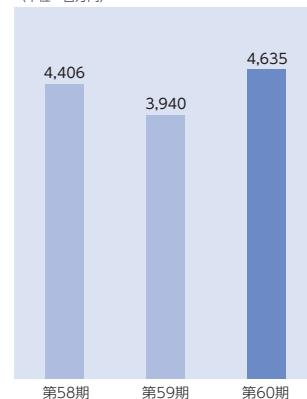
売上高 110,189百万円

売上高
(単位：百万円)



営業利益 4,635百万円

営業利益
(単位：百万円)

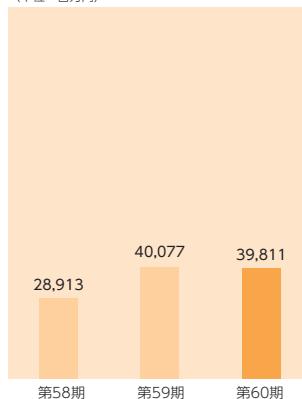


■ アジア

主要顧客における中国の生産の微増、タイの生産の減少、及びインドネシア工場の立ち上げ費用負担等により売上高は39,811百万円（前期比0.7%減）、営業利益は758百万円（前期比34.5%減）となりました。

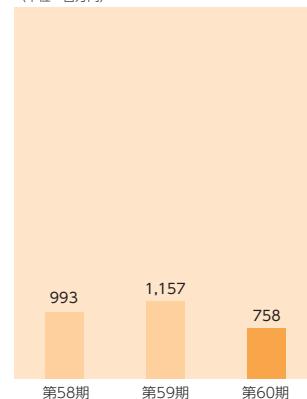
売上高 39,811百万円

売上高
(単位：百万円)



営業利益 758百万円

営業利益
(単位：百万円)



連結財務諸表

▶ 連結貸借対照表 (要旨)

(単位:百万円)

	当期	前期
	平成27年3月31日現在	平成26年3月31日現在
資産の部		
流動資産	57,707	49,404
固定資産	74,989	61,657
有形固定資産	67,527	55,144
無形固定資産	780	858
投資その他の資産	6,681	5,654
資産合計	132,697	111,062
負債の部		
流動負債	57,792	46,833
固定負債	28,548	24,387
負債合計	86,340	71,220
純資産の部		
株主資本	25,115	23,958
資本金	4,790	4,790
資本剰余金	5,228	5,228
利益剰余金	15,115	13,958
自己株式	△18	△18
その他の包括利益累計額	5,283	1,916
少数株主持分	15,958	13,967
純資産合計	46,356	39,842
負債・純資産合計	132,697	111,062

▶ 連結損益計算書 (要旨)

(単位:百万円)

	当期	前期
	平成26年4月1日から平成27年3月31日まで	平成25年4月1日から平成26年3月31日まで
売上高	175,579	172,456
売上原価	155,028	152,180
売上総利益	20,551	20,275
販売費及び一般管理費	14,986	13,550
営業利益	5,564	6,725
営業外収益	1,031	1,090
営業外費用	804	738
経常利益	5,791	7,077
特別利益	136	48
特別損失	378	130
税金等調整前当期純利益	5,550	6,995
法人税等調整額	2,400	2,171
少数株主損益調整前当期純利益	3,150	4,824
少数株主利益	1,377	1,504
当期純利益	1,772	3,319

▶ 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位:百万円)

	当期	前期
	平成26年4月1日から平成27年3月31日まで	平成25年4月1日から平成26年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,518	9,301
投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,712	△13,108
財務活動によるキャッシュ・フロー	7,052	5,681
現金及び現金同等物に係る換算差額	301	643
現金及び現金同等物の増減額	1,159	2,518
現金及び現金同等物の期首残高	7,823	5,304
現金及び現金同等物の期末残高	8,983	7,823

■ 会社概要 (平成27年3月31日現在)

商号 株式会社エフテック
 本社 〒346-0194 埼玉県久喜市菖蒲町昭和沼19番地
 創業年月 昭和22年7月
 資本金 4,790百万円
 決算期 3月31日(年1回)
 連結従業員 5,972名

■ 役員 (平成27年6月19日現在)

代表取締役会長 木村 嗣夫 常務執行役員 安藤 研一
(北米地域統括兼 F&P America Mfg.,Inc.社長)

代表取締役社長 福田 祐一 上席執行役員 飛田 茂晴
(中国地域統括兼 偉福科技工業(中山)有限公司総経理)

取締役兼専務執行役員 豊田 正雄 上席執行役員 竹内 満
(管理本部長)

取締役兼常務執行役員 藤 瀧 一 上席執行役員 外山 守
(生産本部長)

取締役兼常務執行役員 宮岡 規之 常勤監査役 梅津 啓二
(経営企画室長)

取締役相談役 福田 秋秀 常勤監査役 若林 博美

取締役兼上席執行役員 古澤 好記 監査役 遠西 昭
(開発本部長)

取締役兼上席執行役員 長谷川 誠 監査役 中村 重治
(営業本部長)

取締役 廣瀬 治男

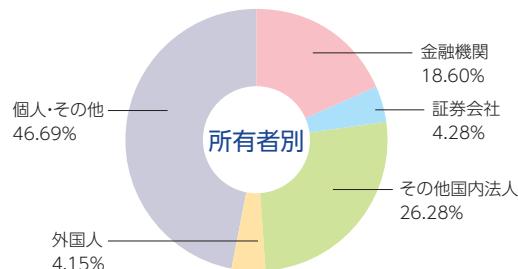
■ 株式の状況 (平成27年3月31日現在)

発行可能株式総数…………… 36,360,000株
 発行済株式の総数…………… 15,390,000株
 株主数…………… 7,823名

▶ 大株主の状況

大株主(上位10名)	持株数(千株)	出資比率(%)
本田技研工業株式会社	2,551	16.58
福田秋秀	1,691	10.99
株式会社埼玉りそな銀行	613	3.98
住友商事株式会社	497	3.23
福田順子	360	2.34
株式会社みずほ銀行	360	2.34
有限会社フクダ興産	339	2.20
福田祐一	298	1.94
エフテック社員持株会	253	1.65
東海東京証券株式会社	222	1.44

▶ 株式分布状況



ホームページのご案内

IR情報開示に関する専用ページから、株主の皆様へ向けて適時情報開示を行っています。
ぜひ一度ご覧ください。



IR掲載コンテンツ

- 社長メッセージ
- 決算短信
- 有価証券報告書等
- コーポレートガバナンス
- 株主総会招集通知
- 事業報告
- 電子公告
- IRカレンダー
- 業績データ
- 株価情報
- 株式に関するご案内
- 決算説明会資料

当社HPでは、製品・技術情報、品質への取り組み、最新ニュース等を掲載しています。インターネットを通して発信する、エフテックの魅力の一端をどうぞご覧ください。

<http://www.fitech.co.jp/>

住所変更・配当金のお受け取り方法の指定・変更、単元未満株式の買取について

- 株主様の口座がある証券会社等にお申し出ください。
- 証券会社等に口座をお持ちでない、又は特別口座が開設されることとなった株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。